

2016年11月21日

会員の皆様へ

沖縄県勤労者互助会
会長 仲皿 正行

国立劇場おきなわ 組踊普及公演鑑賞会を開催しました

謹啓 暮秋の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
日頃から当互助会の活動にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、当互助会は11月19日（土）に国立劇場おきなわ 組踊普及公演を鑑賞しました。国立劇場おきなわは、ユネスコの「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載された「組踊」をはじめとする沖縄伝統芸能の公開、伝承者要請、調査研究を行い、その保存振興を図るとともに、沖縄の地理的・歴史的な特性を活かし、伝統文化を通じたアジア・太平洋地域の交流の拠点となることを目的として2004年1月に開場しました。

今回の鑑賞会は、組踊りの創始者・玉城朝薫の代表作で、朝薫五番の一つです。1719年、尚啓王（第二尚氏王統十三代国王）の冊封の際に初演された「執心鐘入」で、第一部では沖縄が世界に誇る伝統芸能「組踊」の歴史・個性・魅力を観客の参加体験を交えて案内されました。第二部では中城若松に恋していた宿の女が「語り明かしましょう」と若松にいいよります。この二人の掛け合いが最初の見どころです。また、中盤の鐘の見張りを言いつけられた小僧たちのコミカルなやりとり、そして、終盤の鬼に変身するまでの女の心の動きと、女と座主たちの手に汗握る攻防が注目されました。

小雨の降るあいにくの天気でしたが、応募頂いた皆様お疲れ様でした。
初めての取組でしたが、皆様の協力に感謝し御礼と致します。

謹白

